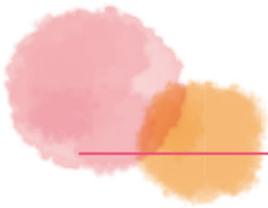


自治研活動とは何か？
なぜ必要なのか？
どうすれば、活性化できるのか？

嶋田暁文 (Akifumi Shimada)
(福岡県地方自治研究所 副所長
九州大学大学院法学研究院 教授)





目次

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？
2. 改めて自治研活動とは何か？
3. どうすれば、活性化できるのか？
4. おわりに



1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-1 自治研担当者の本音？

「担当者だからやるしかない（仕方ないからやる）」

「何をどのように始めればいいのか、分からない」

「自治研の必要性が今一つ分からない」

「ってというか、そもそも自治研が何なのか、未だによく分からない」



1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-2 今自治研が求められる三つの理由

① やりがいの回復

② 学び・成長の機会の必要性

③ 「私たち」を住民にまで広げる必要性

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-2-1 やりがいの回復

⇒慢性的な人員不足と、増え続ける業務



「本当はもっとこういうふうにしたら良いのだけど…」
と思っても、見直しには手間がかかり、そこに時間を費
やすだけの時間がないため、“**これまで通り**” **「仕事を
こなす日々**」。



住民を幸せにし、地域をよくすることが、自治体職員
を目指した理由の一つだったはずなのに、それができず、
悶々とした日々を送っているのではないか？

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-2-1 やりがいの回復

こうした状況を見直し、
やりがいのある仕事の仕方に変えたり、
本務ではそれができなくても、本務の外側の部分で、
やりがいを回復したりできるのが、自治研活動！

ところで、自治研活動とは「地方自治研究活動」の略。



では、具体的に何を研究するのか？
なぜ研究が必要なのか？

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-2-1 やりがいの回復

「地方公共団体は、**住民の福祉の増進**を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする」（地方自治法1条の2）



どうすれば、「**住民の福祉の増進**」につながるかは、**自明ではない。**



だからこそ、その答えを見出すために、研究する必要がある。



それをもとに実践につなげていくのが、自治研活動！

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-2-2 学び・成長の機会の必要性

自治体現場はかつてないほど多忙化し、余裕がなくなっている。



そのため、「見守る」「励ます」「教える」「育てる」といった上司や先輩が果たしてきた役割が果たされなくなっている。



財政難もあり、研修の機会の減少や内容的な限定化も著しい。



学び・成長の機会の不足。

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-2-2 学び・成長の機会の必要性

他方で、現場の余裕のなさは、若手職員に対して、早い段階から「即戦力」として期待する傾向へとつながっている。

↓
「若い職員は、失敗を重ねながら、成長していくものだ」という余裕のある考え方ができなくなっている。

↓
早い段階から「できる人間、できない人間」の識別がなされがち。

↓
学び・成長の機会を十分に与えられないまま、こうした流れに巻き込まれてしまうのは、しんどすぎる！

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-2-2 学び・成長の機会の必要性

このような時代だからこそ、今、若い学生たちが就職先に求める最も重要なポイントは、「成長できる職場かどうか？」という点になっている。



そうした観点から見たとき、ほとんどの自治体は、そうしたニーズに全くと言って良いほど対応できていないように思われる。



職場で学び・成長の機会が十分に得られないなら、その機会を代替的に提供するのには、労働組合しかない！

⇒それが、自治研という場。

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

1-2-3 ③「私たち（自分たち）」を広げる必要性

賃金アップ、各種処遇改善などを求める労働運動は、「自分たち」の利益（自己利益）拡大を求めるもの。



もっとも、かつては、「自分たち」＝「労働者」であって、「自治体労働者の処遇改善を図ることは、それ以外の労働者にとってもプラスなんだ。それがひいては社会全体にとっての利益にもつながるのだ」という認識が共有されていた時代があった（「労働者の時代」）。



ところが、今やこの前提が失われてしまっている。
→どうということか？

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？

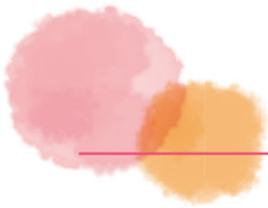
1-2-3 ③「私たち（自分たち）」を広げる必要性

(理由①) 人口構成的に見て、年金生活者等の高齢者など、働いていない人が増え、「労働者の利益を追求することが社会全体の利益につながる」という前提が失われた。

(理由②) 経済成長を通じて増大したパイを分け合うということができなくなってしまったことで、分断が深まっている。
⇒公務員の労働運動は、「社会的に有利な立場にある人々による既得権を守るための行動」として批判されるように。



これを乗り越えるには、自治研活動を通じて、「私たち（自分たち）」を住民にまで広げていくしかない！
＝労働運動と自治研活動は「車の両輪」



目次

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？
2. 改めて自治研活動とは何か？
3. どうすれば、活性化できるのか？
4. おわりに

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-1 自治研活動の（嶋田なりの）定義

自治研活動＝組合員の「したい (will)」 「できる (can)」
の重なるの先に、（直接的あるいは間接的に）社会的に意味
のあること（＝誰かにとって必要なこと、誰かを幸せにしたり
、地域を良くしたりすること等）を実践すること。

* これまでの組合活動は、「しなければならない (must)」を
強調してきたが、「したい (will)」 「できる (can)」を重視
している点がポイントの一つ。

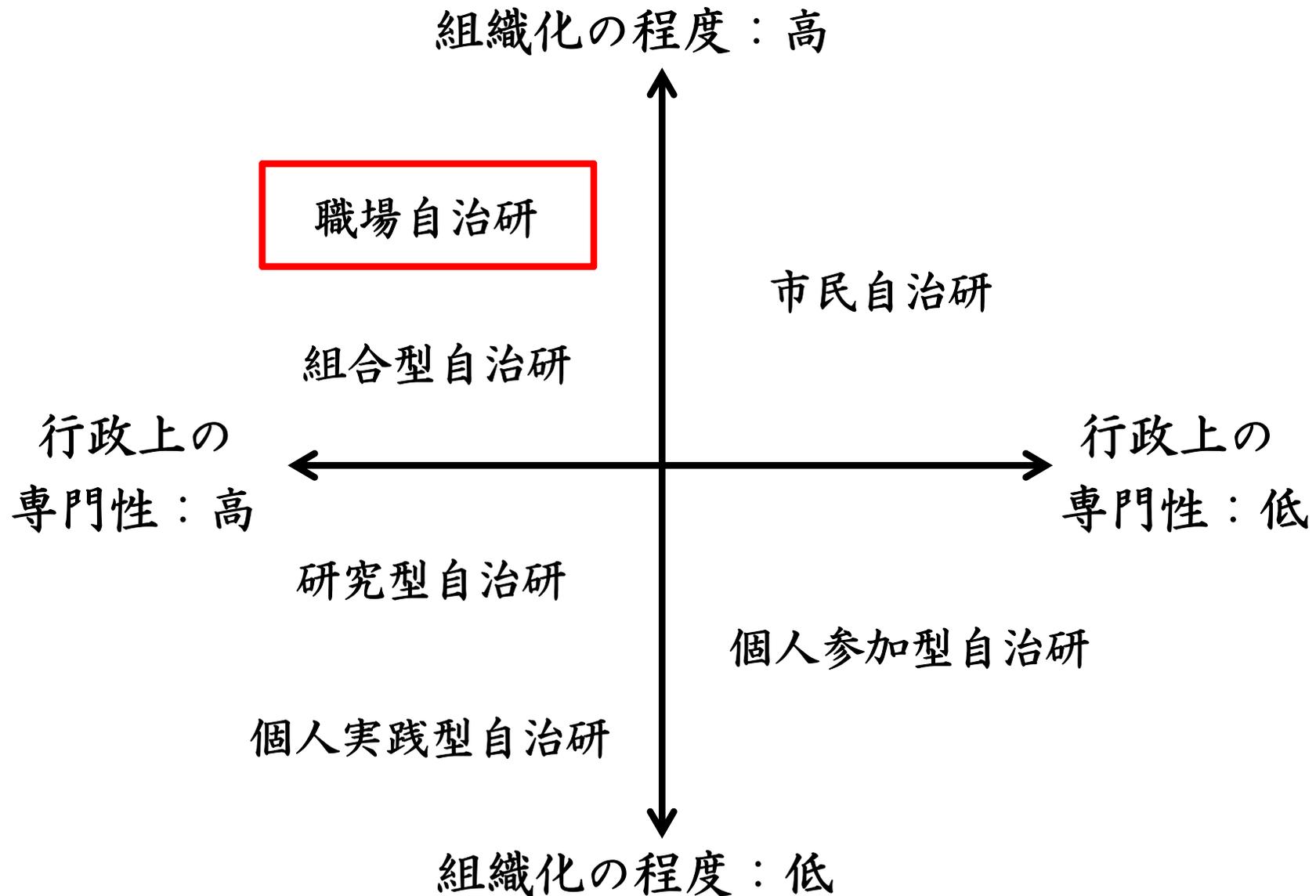
↓
しかし、これだけだと、漠然としてよく分からない。

↓
実は自治研活動にもいろいろな種類がある。

↓
そこで、さまざまなタイプの自治研活動を具体的に見てい
きたい。

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型



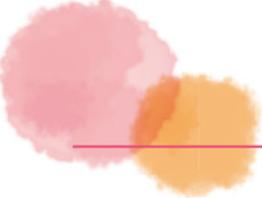


2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

<職場自治研とは？>

各職場において、そこで働く組合員自ら、職務のあり方を再点検し、住民に対する公共サービスの向上、業務改善に取り組むこと。



2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

1970年代の墨田区向島でのごみ収集の例

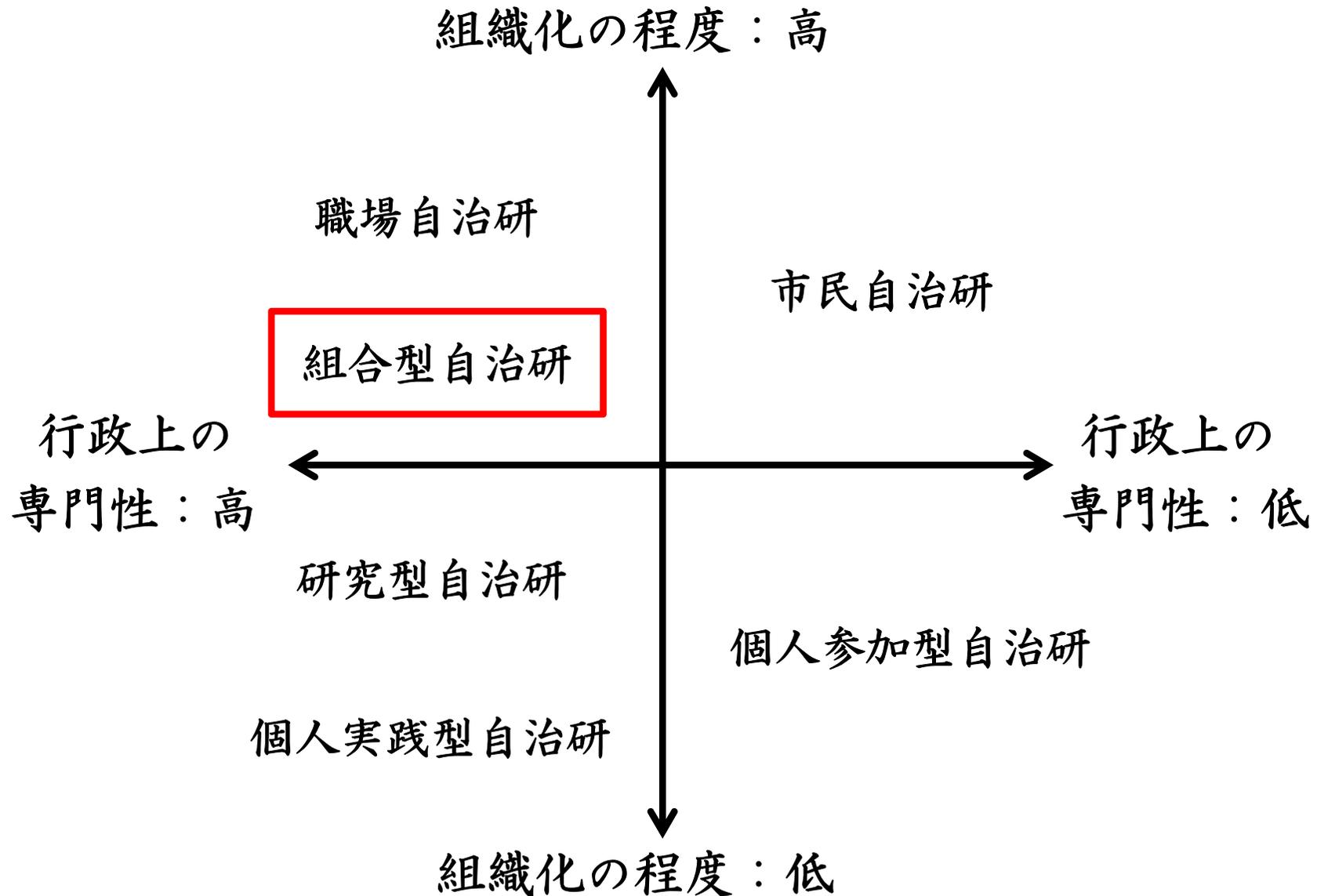
集積所に、布で作ったバラの造花がくくりつけられたごみ容器があった。

「ごみ容器にまで造花をくくりつけるとは、なんと花好きなのだ。いったいどんな人が使っているのだらう？」と、早めに出かけ、電信柱に身を潜めて、様子を伺った。

すると…

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型





2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

< 組合型自治研とは？ >

組合が主体となって、職場横断的な課題に取り組むこと。

(例：職場アンケートや、その結果に基づく改善策の提案など)

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

問い

ある日、急ぎの重大案件を抱えた某部長は、部下のA君とB君に下命することにした。その案件は、期限は明日の朝までで、合格ラインは80点であるとする。

A君は、頭脳優秀な職員で、要領よく夕方5時までに仕上げて、さっさとアフター5を楽しみに帰った。 出来ばえは85点であった。

B君は、頭脳はあまり優秀ではないが、まじめで努力家で、徹夜して仕上げた。 出来ばえは90点であった。

さて、上司としてどちらにいい評価をつけるべきであろうか。その理由も挙げよ。

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

解題

収穫逡減（＝同じ時間をかけて得られる効用が徐々に少なくなっていく現象）を意識すべし！



その上で、**100点満点**でなければならない仕事と、そうでない仕事を、**意識的に仕分け**すべき。



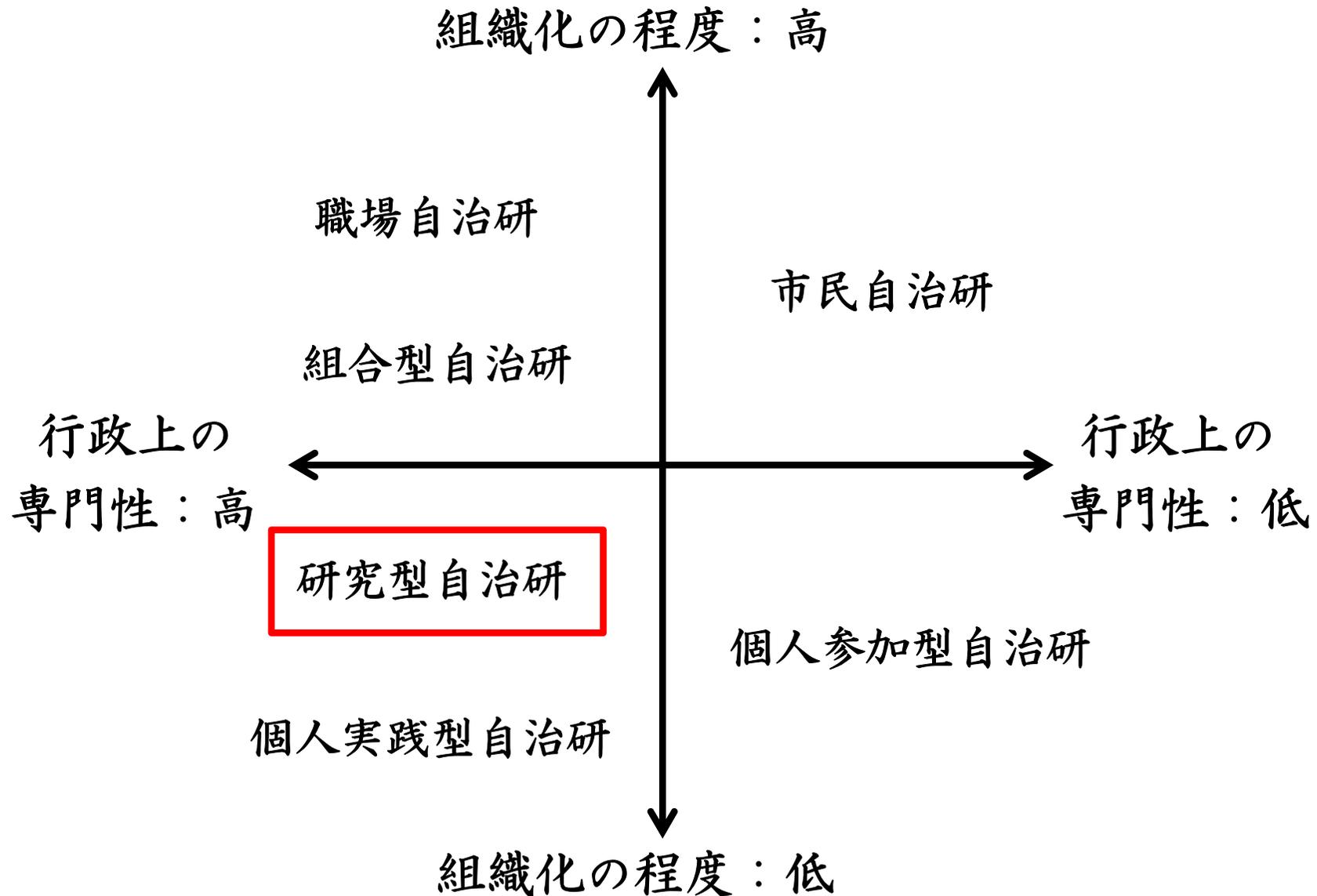
常に**100点満点**ばかり狙うべきでない。

×：「この資料は必要ないでしょうか？」などという聞き方

○：「必要な資料はこれとこれでいいですね？」とこちら側の判断を確認するような聞き方。

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型





2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

<研究型自治研とは？>

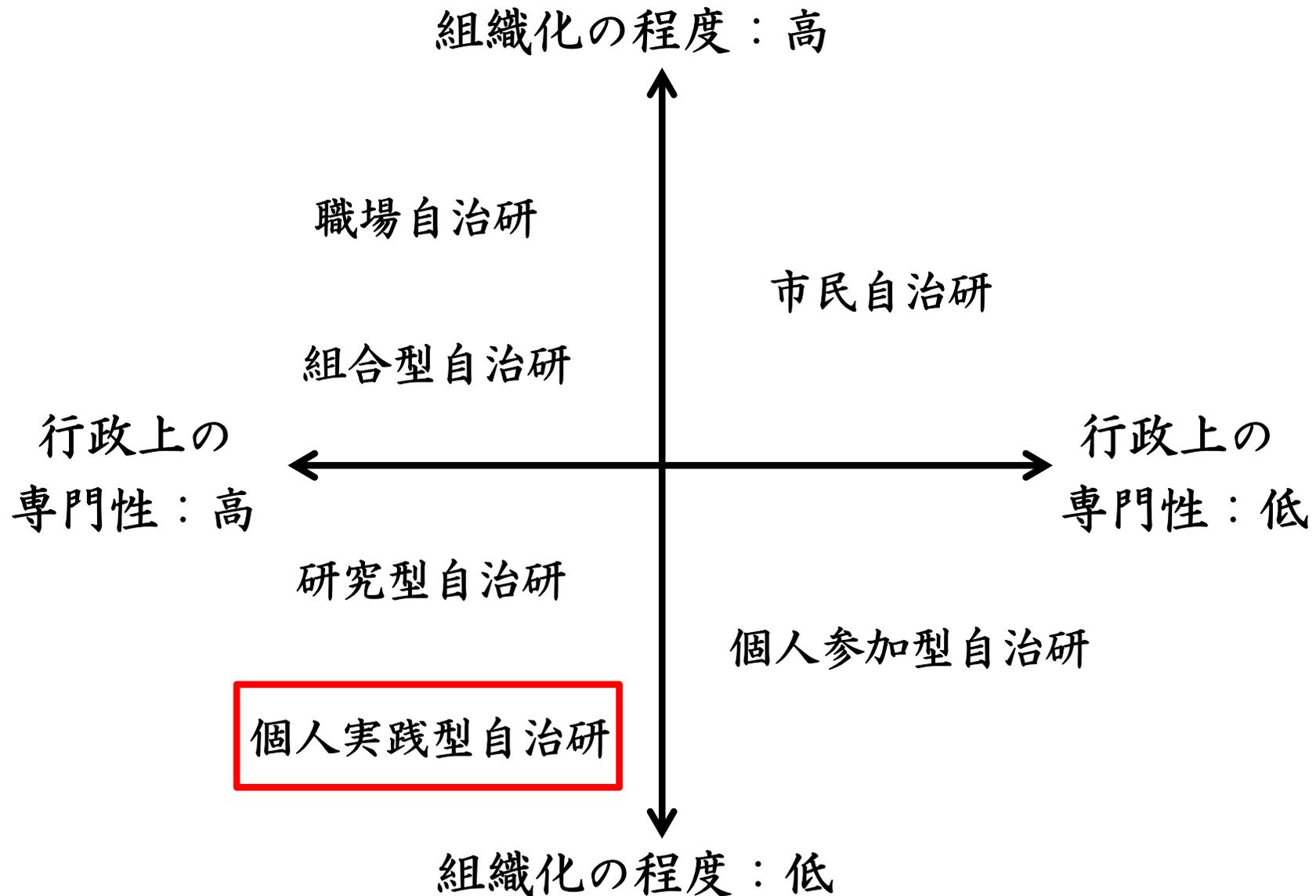
市民・職員・研究者が行政課題や地方自治制度等について研究を行い、それを広く社会一般および組合員に還元する活動。



学習と発信

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型





2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

<個人実践型自治研とは？>

自らの職務に高い問題意識を持った組合員個人が、職場レベルで、公共サービスの向上や職務改善等に取り組む活動。

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

元・墨田区役所職員・村瀬誠さんの仕事

1970年代、銭湯の消毒をめぐる、基準違反が多く見られた。



ルール・基準を守らない規制対象者に対し、「是正すべし」と行政指導を繰り返しながら、「規制対象者の遵法意識の低さ」を嘆くというのが一般的な職員の姿であった。



村瀬氏は違った。「なぜ守ってくれないのだろう？」と考えた。



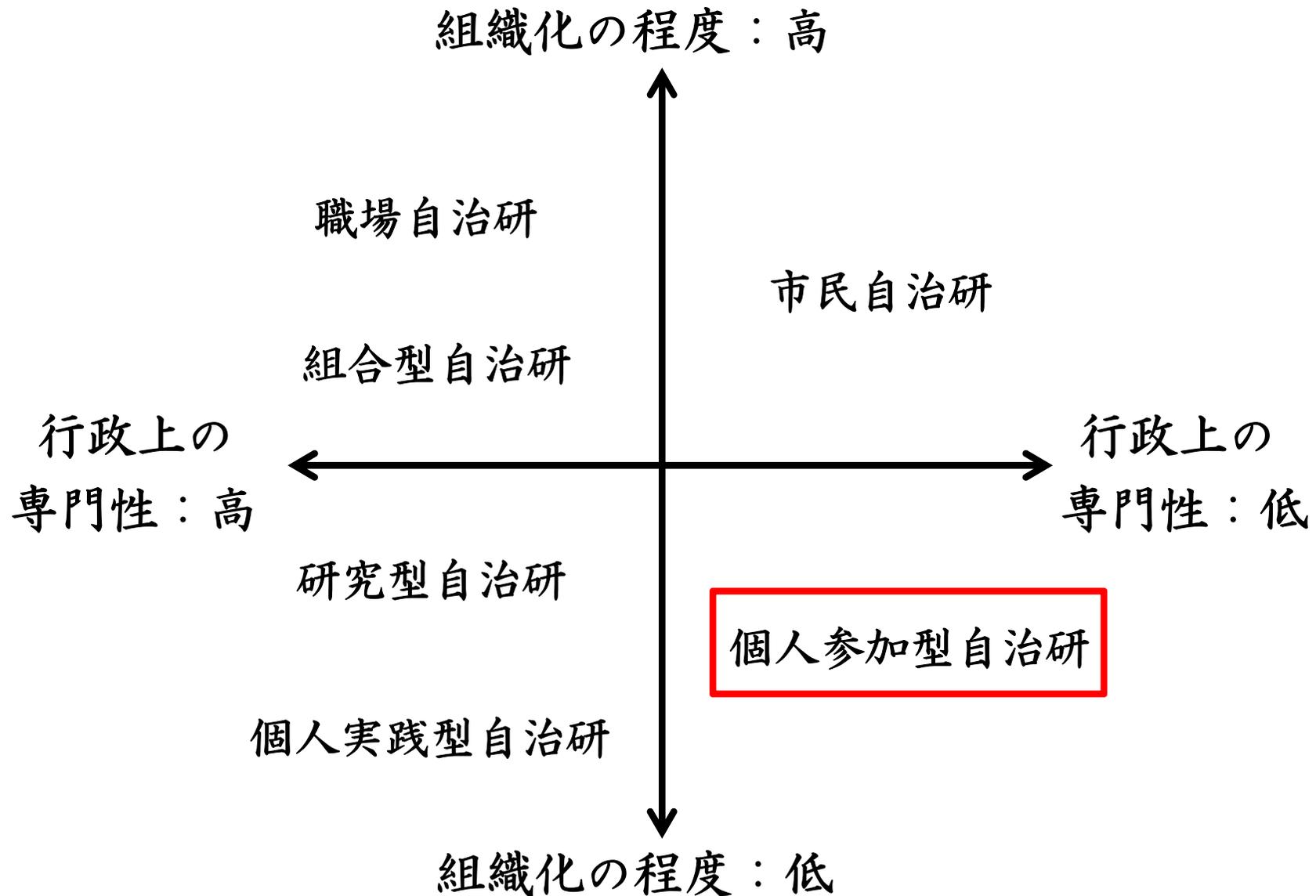
分かりやすいスライドを作り、安心して守れる方法を伝えた。



皆、規制ルールを遵守するようになり、行政指導を繰り返すために巡回するという仕事自体がなくなった。

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型





2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

<個人参加型自治研とは？>

組合員が自分の余暇時間を使って、各種の市民活動に参加し、地域課題の解決に取り組んだり、地域の魅力を高める活動を行うもの。

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

個人参加型自治研の例：山田崇氏（元・塩尻市職員）（続き）

たぶん、いま日本で いちばん飛び出している 地方公務員。

塩尻市役所 企画政策部 企画課 シティプロモーション係
山田崇、（2016年1月現在）

塩尻に居がないんじゃないか？と見まごうばかりに全国各地を飛び回り、地域の内外問わず、すごい運動量。

大小さまざまなプロジェクトにかかわり、

2013年には「空き家プロジェクト nanoda」の取組が注目され雑誌『TURNS』の表紙を飾り、「地域に飛び出す公務員アワード」大賞受賞。

2014年は世界で最も有名なトークライブの一つ「TED テド」の「TED×Saku」で登壇、「nanoda」の話をすると思いきや、延々「ナンパ」の話をしていて、わたしを知った方も多と思います。

今回の人間ギャラリーでは、そういったさまざまな取り組みをゆっくりとご紹介できればと思います。

「信州移住計画」

2015年6月に立ち上げた「信州移住計画」。

信州への移住定住を促進し、「好きなまちに、自分らしく暮らす」をテーマに、そして「みんなの移住計画」と一緒に、移住したい人、移住した人のコミュニティづくりを進めています。

今回の銀座ギャラリーでは「信州移住計画 超会議」と題して、信州でおもしろい活動をして、いろんな人を呼び込んでいるキーマンたちを集めて、今後の信州を語ります



関わるプロジェクトがずらり!

- 「空き家プロジェクト nanoda」
- 「しおじり まちの教室」「市長の味噌」
- 「Shiojiri Conversation（塩話/尻話）」
- 「しおじりチャリフェス」
- 「信州若者1000人会議」
- 「地域ベンチャー留学（実践型インターンシップ）」
- 「地域イノベーター留学」
- 「人に会いに行く旅。」
- 「しごとパー」「LLP honobono」
- 「信州大学共同研究 地域連携研究員」
- 「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」
- 「コクリプロジェクト」
- 「はばとままになるまえにin塩尻」
- 「信州移住計画」
- 「地方創生協働リーダーシッププログラム」
- などなど

nanoda
www.shiojiri.jp/空き家プロジェクト-nanoda/

信州移住計画
<https://www.facebook.com/shinshu.ju.kakaku/>

「空き家プロジェクト nanoda」

シャッター商店街になってきている地元、大門商店街に賑わいを取り戻すために、当初、塩尻市役所職員の有志が、自費で月1,000円ずつを出し合って空き家を借りて、さまざまなイベントを仕掛ける「nanoda」を立ち上げたのが2012年4月。そこには、地域の課題を想像で捉えるのではなく、実際に住んでみないと商店街の現状・課題はわからない、という思いがあり、現在は、商店街店主や市職員以外の方も参加しnanodaを運営中。



2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

空家プロジェクト nanoda

塩尻市役所の若手職員による勉強会「しおラボ」

→月に1度、「50年後の塩尻市が豊かであるために職員は何をすべきか？」をめぐって意見交換。

2012年3月、「魅力ある商店街を考える」というテーマで勉強会をし、大門商店街（閉店率21.3%の「シャッター商店街」）が話題に上った。

→山田崇さんは、勉強会の最後に行動宣言をするプロミスカードに「借りてみる」と書いた。

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

空家プロジェクト nanoda (続き)

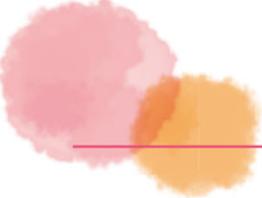
鈴木さん（当時81歳）から空き家を月1万1000円で借りた（仲間で1000円ずつカンパ）。

↓
「空き家を掃除なのだ」と銘打ち、仲間と一緒に中の掃除に着手。

↓
綺麗になった空間で鈴木さんと食事をし、思いを聞いた。
他の店舗も同様に「お掃除なのだ」をやり、大家と食事をしながら思いを聞いた。

↓
すると、シャッター街でも、特段困っていないことが判明。

↓
一律的な商店街活性化を目指すのではなく、商店街で何かやってみたいという市民や職員の“挑戦の場”にしようと方向転換



2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

空家プロジェクト nanoda (続き)

「トークイベントなのだ」「ワインなのだ」「しおなのだ」「朝食なのだ」「まちの研究報告なのだ」など、さまざまな**nanoda**プロジェクトを開催！

*このように「**nanoda**プロジェクト」は、「**〇〇**なのだ」の**〇〇**にやってみたいことを入れ、**3人**集まったら楽しく実行してしまうというプロジェクト。



上/元・電器店だった「アトリエなのだ」で行われた木所さんの研究報告。空き家の価値について和気あいあいと語り合った。右/まちづくりに関心の高い市民や図書館の映画部の女性たちなど15名が参加。左/木所さんの祖母の漬物、母のクラッカー、ミカンの皮入りおにぎりなど手づくり料理を囲んでディスカッション。左下/場所を「nanoda」に移して、乾杯!

『ソトコト』
2015年3月号



① 空き家を「nanoda」に貸す鈴木さん。
② 3軒目の「nanoda」で「Pinkie Ball oon」を営む東海林とも子さん。



空き店舗で活動「ナノダ」



岩倉市の「tebayo(てばよ)」の皆さん



岡崎市の「ここやる」の催して集まった人たち

塩尻発の絆づくり全国へ

岡崎市の職員たちは昨年12月(「てばよ」と名付けた。3月に空き店舗を借りて「ここやるzone(ここのぞん)」と名付け、活動を始めた。食事をやウオーキングなどもさまざまな催しを企画し、若手男女が集う場になりつつある。岩倉市職員は今年2月に空き店舗を借り、「tebayo」を訪れて、代表の塩尻市職員山

塩尻市の職員らが大門商店街の空き家を自費で借り、さまざまな活動をしている「nanoda(ナノダ)」に触発され、愛知県岡崎市と岩倉市の職員がそれぞれの地元商店街で同様の取り組みを始めています。ナノダの活動は商店街活性化のみならず、今や市の魅力を発信するシティープロモーションにもつながっており、全国から注目されている。

(柳 純)

田原さん(41)と知り合った。岩倉市建設部商工農政課商工観光グループに所属する「てばよ」代表の金森隆さん(28)も、1月下旬に開かれた愛知県地域づくり活動フォーラムで、講師を務めた山田さんとナノダの活動を知った。ナノダは平成24年4月に、

岡崎や岩倉でもスタート

薬くんと5軒が新たな用途で活用されるようになった。ナノダからの人のつながりは県外にも広がり、全国の自治体から注目される存在になっている。昨春から市企画課シティープロモーション係に配属された山田さんが本年度中に全国各地で講演したり、視察を受け入れたりした回数はいなかつた。山田さんは「ナノダを始めた時にはこのようになるとは想像もしていなかつた」と喜びを語る。山田さんは「予想以上に多くの人が応援してくれている。多くの人の輪を広げ、人と人、人と地域をつなぐ企画を展開したい」と話し、金森さんも「先のことば『やってみなければわからない』ので、いろいろなことにチャレンジしたい」と意気込んでいる。

他の自治体
(愛知県岡崎市、
岩倉市)
にも
飛び火!

『市民タイムス』
2016年4月2日

山田さん「活性化伝道師」に

国が登録 商店街での活動評価

塩尻市の大門商店街の空き店舗を市民有志と自費で借り、商店街のにぎわい創出プロジェクト「nanoda(ナノダ)」を展開している市職員山田崇さん(41)がこのほど、内閣府地方創生推進事務局から「地域活性化伝道師」に登録された。山田さんは市のシティープロモーションも担当しており、「伝道師として活動の幅が広がることで「塩尻を知ってもらう機会になれば」と意欲を燃やしている。

(柳 純一)

ホームページに掲載され、各自治体や団体などが課題解決への取り組みに適した伝道師を

して伝道師を派遣することもある。山田さんは「講演などに行くことで、塩尻を見に来てくれる人が増えている。自治体や公務員志望者を対象にした高校や大学での講演依頼も増えた」と話す。地方創生推進事務局は「地域の成長の強化や雇用創出につながる活動をしてほしい」と期待を寄せている。



地域活性化伝道師に登録された山田さん

地域活性化伝道師に再生の分野は78人で、広がりを、現在のシティーは4月1日現在、全国 山田さんはその一人に1プロモーションの仕事の350人が登録され選ばれた。伝道師の多事にもつながっている。このうち地域 くは企業や一般社団法人、各種研究機関、NPO法人、大学の関係者、市町村職員は珍しい。山田さんはナノダの活動から全国に人脈が伝道師は内閣府のホ

『市民タイムス』
2016年5月16日

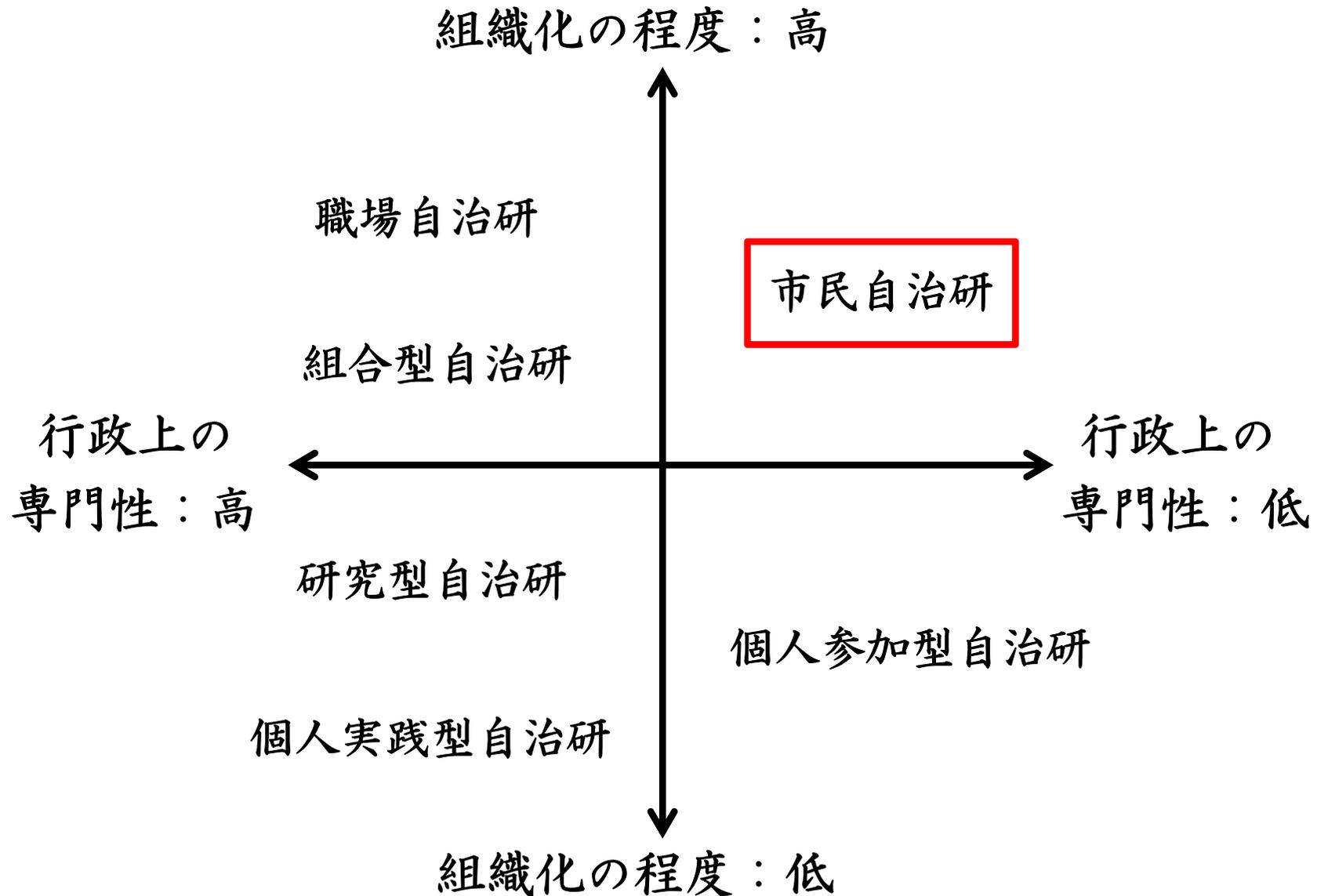
個人参加型自治研に対する組合の捉え方の問題点

- ①従前これらの活動は、職員個人の趣味的活動であって、自治研活動の一つの形態と見なされてこなかった。
- ②それどころか、ときとして、組合の中に、それに対するやっかみや反発が垣間見えることすらあった。
(「自分たちは『しなければならない』ことを一生懸命にやっているのに、彼らは自分たちが楽しいことをやっているだけではないか?」)
- ③しかし、そういう発想自体が組合離れの原因に。
- ④こうした新たな動きに対して、無視したり、距離を置くのではなく、むしろそこに接近し、一緒にやっければよいのではないか?

→市民自治研への展開可能性

2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型



2. 改めて自治研活動とは何か？

2-2 自治研活動の類型

<市民自治研とは？>

組合の自治研組織が、市民や市民活動団体、市民運動と連携し、誰かの思いを実現したり、プロジェクトを企画・実施したりするもの。

*そうした活動を推進する上での拠点となるのが、「**交流拠点**」や「**ローカル自治研センター**」（後述する丹南市民自治研センター、宇佐市民自治研究センター「よろうち いのちき」、坂井あわら市民自治研究センター、福井市民自治研センター、西東京自治研センター）などの場。

「地域の交流拠点」とは？

～一つの到達点としての「みつや交流亭」～

「みつや交流亭」とは

＝三津屋商店街（＝住宅と中小工場が混在する大阪市淀川区にあり、阪急神崎川駅前から南方向に長さ550mのアーケードを持つ）の一角に、2007年8月に、**商店街組合と労働組合の協働**で作られた**市民交流スペース**。NPO、子育てサークル、落語家、福祉施設管理者、大学研究者、学生、労働組合など多彩な人々が集まる。





「地域の交流拠点」とは？

～一つの到達点としての「みつや交流亭」～

⇒目的は「まちと人を元気にする拠点づくり」

1階オープンスペースや2階和室は、落語会、音楽会、子育ての集い、アート教室、地域の集まり、お誕生会などの場として活用されている。

「こんなことしたい」「あんなことできたら」といった提案を受け、みんなで実現する。

2010年3月には「NPO法人みつや交流亭」となり、「防災まちづくり」「音楽祭」などに取り組んでいる。

「地域の交流拠点」と「ローカル自治研」の違い

①活動の比重

- ・「地域の交流拠点」は、“どちらかといえば”、イベント・催し物などの「非日常的な交流活動」、もしくは、生きがいデイサービス、交流サロン、アンテナショップ、喫茶・食事コーナーなどの「日常的な交流活動」のいずれかもしくは両方に力点がある。
- ・これに対し、次に見る「ローカル自治研」は、同じく、多様な人々が集まる点では共通しているものの、“どちらかといえば”、「地域の諸課題等について意見交換と解決に向けた実践的取り組み」に力点があるように思われる。

②活動範囲

- ・「地域の交流拠点」は、商店街など、自治体の中の一地域でのものであるのに対し、「ローカル自治研」は、自治体全体もしくは複数の自治体の区域をカバーするものである。

ローカル自治研の到達点＝丹南市民自治研センター

丹南市民自治研究センターとは？

＝福井県中心部にある丹南地域の越前市、鯖江市、越前町、南越前町、池田町の住民、自治体職員、議員、研究者が、地域の課題や暮らし、まちづくり、平和、福祉などについて、気軽に集い語り合い、学びあう「地域の学び舎」のような市民活動団体。

2001年4月に発足。2007年6月1日付けで「特定非営利活動法人丹南市民自治研究センター」となった。

会員数は、**2023年11月現在、216名。**

「**必ず、他の団体等と事業を共催し、そこでの共通の学習成果を基に、『地域に必要なもので、ないものはつくる』をモットーに、積極的に街に出て市民運動を起こしている**」（橋本2010：68）



丹南市民自治研センターの主な活動

① 「ラブ電」

→赤字路線である福井鉄道福武線で「婚活」をする出会い事業

② 「メダカ連絡会」

→教師らと連携し、メダカを浄化センターで処理した水で飼育

③ 「児童養護施設の指定管理」

→公立の児童養護施設につき、「子どもを育てることを真剣に考えない直営ならもういらぬ」という話になり、社会福祉法人を自分たちで作って、自分たちで施設を運営するという事になった。→社会福祉法人の設立に必要な1000万円を、2~3月かけて、市役所の職員も市民も議員も管理職も、5000円、1万円とカンパしてもらったことで集め、「越前自立支援協会」を設立し、指定管理者になった。

④ 「LGBT」への啓蒙と支援の活動

→LGBTの支援者・理解者であることを表明するピンバッジの作成など

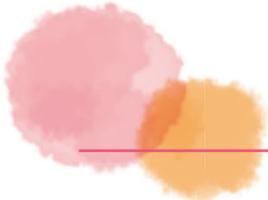
丹南市民自治研センターの狙い

「市民と行政、住民と自治体職員が、サービスを提供する側と受ける側というだけの対峙する関係では、＜不信と対立の関係＞から脱却できない。両者が＜信頼と協働の関係＞になれるようにしたい」（橋本2010：66）

（by 丹南市民自治研究センター理事長（当時）・伊藤藤夫）

「…制度政策要求という形で首長や当局と交渉し、自治体の制度・政策を変えていくことはもちろん大事な活動だろう。…（中略）…が、丹南地域では、もう一工夫がある。

- ①地域や行政の課題をローカル自治研という装置を使い、いったん市役所や組合の外に出す。
- ②そこで、様々な立場の市民とともに、一市民として学習を深め、学び合う。
- ③参加者がともに成長しながら、行政を含む地域のあり方そのものを変えていくことを目指す」（橋本2010：71）



市民自治研の意義①

「不信と対立の関係を超えていくためには、人びとの出会いが必要であり、ローカル自治研とは出会いの場を創造する取り組みであると言える」（辻山2010a：72）

「行政と市民が一對一で向き合くと、依然として行政が提案し、市民は行政の出方を待つという構図になりがちだ。だからこそ中間的な支援組織が必要であり、自治研や自治研センターの存在意義もそこにある」（辻山2010a：72）

→つまり、住民と行政、住民と自治体職員との関係構造の
変革に結びつく点にこそ、「市民自治研」の意義がある！



市民自治研の意義②

「『出る杭は打たれる』とよくいわれる。

『では、打たれないように高く伸びよう』と友人は言った。相手より高く伸びて打たれないようにすればよい、と。しかし、別の友人は言った、『伸び過ぎれば抜かれるぞ』と。たしかにそうだ。

それならば抜かれないように『地に大きく根をはろう』。地域に、市民のなかに根ざして、市民とともに地方自治の新たな展望を築こう」（荒川2006：43）

→つまり、市民自治研の推進は、地域に根づく“結果”として、自治体職員や組合が「抜かれぬ」（＝攻撃、排除されない）ことにもつながる！



目次

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？
2. 改めて自治研活動とは何か？
3. どうすれば、活性化できるのか？
4. おわりに

3. どうすれば、活性化できるのか？

3-1 改めて自治研活動の定義を振り返る

では、どうすれば自治研活動を活性化できるのだろうか？
何から、どのように始めればよいのだろうか？

↓
先に見た自治研活動の定義がここで役立つ。

↓
自治研活動＝組合員の「したい」「できる」の重なる先に、
（直接的あるいは間接的に）社会的に意味のあること
（＝誰かにとって必要なこと、誰かを幸せにしたり、地域を
良くしたりすること等）を実践すること。

↓
①組合員の「したい」「できる」の重なりから出発する道
と、②「社会的に意味あること」から出発する道という二つ
の道筋が見えてくる。

3. どうすれば、活性化できるのか？

3-2 対話からの出発～「したい」「できる」の重なるの探求

一つ目の道筋は、**組合員の「したい」「できる」の重なりから出発する道**である。



仕事の内外で感じていること、個人の思いを語り合う。そして、互いに、何が「したい」のか、何を「できる」のかを語り、前向きに話し合う。



そして、それを「社会的に意味あること」に昇華させ、単独、もしくは、誰かの「したい」「できる」に乗っかる形で、まずは、やってみることが大事。



3. どうすれば、活性化できるのか？

3-2 対話からの出発～「したい」「できる」の重なるの探求

「やりはじめないと、やる気は出ません。
脳の側坐核が活動すると
やる気が出るのですが、側坐核は、
何かをやりはじめないと活動しないので。」

（「脳の気持ちになって考えてみてください～『やる気』と『脳』の話、池谷雄二さんと。」『ほぼ日刊イトイ新聞』
(<http://www.1101.com/ikegaya2010/2010-10-01.html>))

3. どうすれば、活性化できるのか？

< 「やってみる」際の二つのポイント >

(A) 結果（目的達成）よりもプロセスそのものを愉しむ。

→ 「遊び」の重要性

< 参考：遊びの特徴（by ホイジンガ） >

①自由であること、自由そのものであること

②非日常的な仮構性（→空想性）

③行為すること自体に含まれた充足感ゆえに行われること（＝コンサマトリー）

④日常とは異なる、その場所かぎりの、そしてその時間限りの秩序（ルール）が成り立ち、繰り返し、行われる（→ハレ、祭事性、肩書抜きの特等性など）。

⑤どうなるか分からない不確定性、チャンスが緊張をもたらすこと。
（＝チャレンジする楽しさ）



3. どうすれば、活性化できるのか？

< 「やってみる」際の二つのポイント（続き） >

(B) 「0回目」という発想をもつ。

→ 「1回目」だと、失敗してはいけないと思ってしまう。



しかし、「0回目」は、「お試し」であり、むしろ失敗をどれだけ経験できるかが重要になる。

3. どうすれば、活性化できるのか？

3-3 誰かの思いを応援する～「社会的に意味のあること」から

自治研活動を活性化するためのもう一つの道筋は、「社会的に意味あること」から出発するという道である。

↓
対話を通じて、「社会的に意味あること」って何だろうと
考えてみる方法もあるが、これはなかなか難しい。

↓
そこで、市民アンケートをとったり、NPO等を訪問して、
お困りごとを聞いてみるなどの方法が考えられる。

↓
しかし、普段仕事をする中でも、あるいは、生活する中で
も、いろいろな人のいろいろな思い（声、ニーズ）を知るこ
とが少なくないはず。

↓
そうした思いを拾って、「応援したい」「応援できる」と
思えたならば、自治研のしくみを使って応援していく。

3. どうすれば、活性化できるのか？

3-3 誰かの思いを応援する～「社会的に意味のあること」から

<具体例：>越前市での外国人向けお弁当講座

お弁当を作る
料理教室をしたい！

人口の約5%が外国籍



出典：波多野翼さん作成資料
(ご本人了承済み)

3. どうすれば、活性化できるのか？

3-3 誰かの思いを応援する～「社会的に意味のあること」から

<具体例：>越前市での外国人向けお弁当講座（続き）

お母さんがブラジル人のハーフの女性。
→3年前に大阪から越前市に戻ってきて、ブラジル人向けの日本語学校を始めた。

「料理の勉強をしてるんですよ」

「なんで？」

「お弁当をつくる教室がしたいんです」

日本のように、おにぎりとお焼きとソーセージと唐揚げがあって…みたいな、色とりどりの弁当を作る文化は、ブラジルにはない。

3. どうすれば、活性化できるのか？

3-3 誰かの思いを応援する～「社会的に意味のあること」から

<具体例：>越前市での外国人向けお弁当講座（続き）

彼女は、日本語学校でブラジルの人たちとの対話を通じて、「ほかの子たちの弁当と違う」「交換できない」という子どもたちの悩みを知った。

↓
自分の幼少期に、遠足や運動会の際に、「ごめんね」と言ってお母さんがお弁当を渡してくれていたことを思い出した。

↓
ブラジルのお母さんたちはお弁当が作れなくて悩んでいる。だから、お弁当教室をしたい。

↓
波多野さんは、「できるよ」「やってみよう」と言った。そして、**自治研で3万円をもらって、学校の調理員さんの協力を得て**、5人の家族を相手にお弁当教室を実行した。

卵焼きやタコさんウインナーなどを弁当箱に詰める参加者たちー越前市生涯学習センターで



卵焼きやおにぎり、うさぎ形リンゴ…

日本の弁当作りに挑戦

ブラジル国籍の人に教室 越前市

ブラジル国籍の人たちを対象にした「日本のお弁当教室」が二十日、越前市生涯学習センターで開かれた。市内の親子三組八人が、彩りや盛り方など、日本らしさを詰め込んだ弁当作りに挑戦した。

日本の弁当をどう作ったらいいのかわからないという外国籍の人たちの悩みに応え、NPO法人丹南市民自治研究センターなどが開いた。市内の料理クラブのメンバーで学校給食の調理員に教わりながら、卵焼きやおにぎり、ナポリタンなど弁当定番のおかずを調理した。タコさんウインナーや、うさぎの形に

似せて切ったりんごにも挑戦した。

参加者の多くは、卵焼き作りの初心者。卵焼き用の長方形のフライパンを使い、卵が上手に巻けると、参加者から歓声や拍手が起こった。おにぎりは三角形やハート形に握ってラップでくるみ、ラップの上から顔を描いて愛らしく仕上げた。最後におかずを彩りよく弁当箱に詰めて完成させた。

市内在住の鎌田アナさん(仮名)は親子二人で参加。三人で協力しながら弁当作りに挑戦し「うさぎの形のリンゴが難しかった。今日作った弁当を、来週の子供の遠足に作りたい」と話していた。

(清兼千鶴)



3. どうすれば、活性化できるのか？

3-3 誰かの思いを応援する～「社会的に意味のあること」から

こうした取り組みを行う上でのポイントは、「**自分がやらなきゃ**」とは**考えない**こと。

↓
「人のチカラを借りる」ということを考えるべき。

↓
「誰かの思いに耳を傾け、その思いを実現するために、誰かのチカラを借りる」というふうに考えると良い。

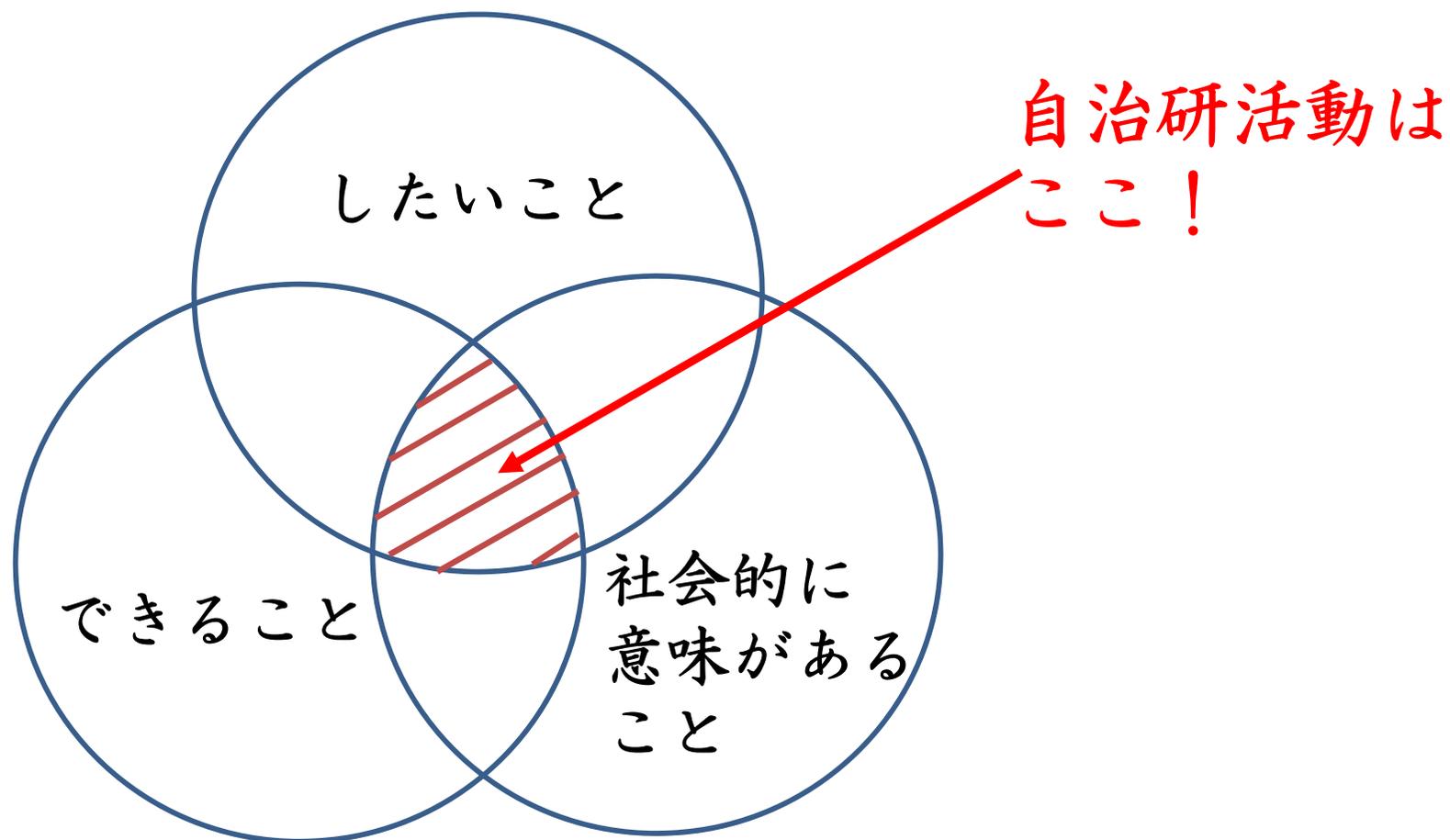
↓
コーディネート役で良い。
→「自分がやらなきゃ」と思うとしんどいが、「困っている人」と「できる人」とをつなげてあげるだけでいい。

↓
人のチカラを借りることで、人の輪が広がっていく。
→「人の輪」を広げる手段としても有効！



3. どうすれば、活性化できるのか？

3-4 まとめ





目次

1. なぜ今自治研活動が求められるのか？
2. 改めて自治研活動とは何か？
3. どうすれば、活性化できるのか？
4. おわりに



4. おわりに

自治研活動は、

① やりがいの回復

② 学び・成長の機会

③ 「私たち」を住民にまで広げること

につながる！



4. おわりに

「○○したいけど難しい」という人がいる。

「難しい」に力が入っている。

「難しいけど○○したい」という人がいる。

「したい」に力が入っている。

(西村佳哲『自分をいかして生きる』バジリコ、2009年、179頁)

⇒ 「したいけど難しい」であきらめないで！



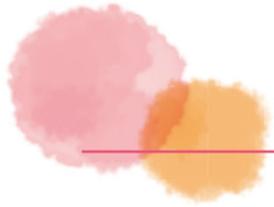
4. おわりに

誰もが
いのちの奥底の
燠火（おきび）は吹き消せない
消えたと思うのは
こころの 錯覚

（岩崎航『点滴ポール 生き抜くという旗印』ナナロク社、2013年、51頁）

気がつかないだけだ
外は意外に
晴れている
窓を全開に
いのちを全開に

（岩崎航『点滴ポール 生き抜くという旗印』ナナロク社、2013年、42頁）



4. おわりに

応援しています！

がんばって！



<参考文献>

- 荒川俊雄（2006）「変革のなか自治体職員は変わるか—自治体職員としての活動経験から」『市政研究』152号。
- 出水薫（2023）「自治研は、なぜ組合活動なのか？」（2024年度福岡県地方自治研究集会（2023年12月2日）基調講演①）。
- 岡部謙治（2006）「自治研活動は自治労のライフワーク、自治労運動そのもの」『月刊自治研』2006年11月号。
- 小野久（2014）「『困りごと』からの出発—大分県地方自治研究センター社会保障専門部会」『月刊自治研』2014年1月号。
- 熊谷隆一（2015）「これからの自治体労働者と自治研—自治研活動へのいざない—」『自治研かながわ』2015年10月号。
- 黒岩正治（2002）「今、自治システムの大改革を目前に 地方自治確立への歩み—福岡県地方自治センター」『月刊自治研』2002年4月号。
- 黒岩正治（2008）「組合ってなんだ？『じちけん』ってなんだ？」『月刊自治研』2008年5月号。

< 参考文献（続き） >

- 黒岩正治＝橋本達昌＝本田智和（2014）「（パネルディスカッション）歴代自治研賞受賞活動—政策起業のその後」『月刊自治研』2014年12月号。
- 自治研マイスター(2015) 「（自治研お悩み相談）活動のきっかけづくりが難しいのですが。」『月刊自治研』2015年9月号。
- 嶋田暁文（2014）『みんなが幸せになるための公務員の働き方』学芸出版社。
- 丹南市民自治研センター（2010）『地域を変える自治研力』。
- 辻山幸宣（2010a）「自治研実践者交流・全国フォーラムin丹南に参加して」『月刊自治研』2010年5月号。
- 辻山幸宣（2010b）「公共サービスの再生と自治研の役割」『月刊自治研』2010年9月号。
- 西尾祥之＝佐野幸次（2014）「（インタビュー）自治研活動に惹かれた理由」『月刊自治研』2014年4月号。
- 橋本和久（2003）「自治のステージへ—『市民自治研』の可能性を探る」『月刊自治研』2003年1月号。



<参考文献>

- 橋本和久（2006）「地域のふとこころに飛び込む覚悟を！—自治研への『入門』」『月刊自治研』2006年11月号。
- 橋本和久（2008）「あえて『自治研屋』の汚名を着て」『月刊自治研』2008年4月号。
- 橋本和久（2010）「ローカル自治研は<新しい公共>の夢を見るか」『月刊自治研』2010年5月号。
- 波多野翼（2023）「あなたが動けば社会をちょっと変えられる～ボルガライスの軌跡～」(2024年度福岡県地方自治研究集会(2023年12月2日) 基調講演②)。
- 牧坂秀敏（2006）「職場から市民との協働の場づくりを—大牟田市職労との協働」『月刊自治研』2006年11月号。
- 松井健太郎（2015）「『nonoda』は、塩尻のにぎわいなのだ！—空き家から始まる愉快的プロジェクト—。」『ソトコト』2015年3月号Lite版。
- 「自治研活動スタートアップマニュアル」『月刊自治研』2022年9月号。